

高等部 「C2グループ 自立活動 個別学習」の取り組みについて

執筆者 猪谷 枝璃

1. はじめに

「個別学習」の時間は今年度から始まった新しい授業で、認知・コミュニケーションの力を高めることを目標としている。本グループの生徒は、運動機能面には立位や歩行において比較的制限が少なく、車イスを使用する生徒についても自走やよつばいなどによって自分で移動することができる。また、欠席する生徒が少なく、学習を積み上げやすい環境にあり、繰り返し取り組むことにより定着しやすい。音楽や映像、揺れなど好きなものが明確にある生徒が多く、自分の意思を発声や動作で表すことができるので、本授業では生徒の興味・関心や学習段階に応じた教材を用意し、自分の気持ちを他者に伝えたいような関わりができるよう指導・支援する。また、授業を行うにあたり、生徒の実態把握をするための手段の一つとして、広島県立福山特別支援学校の『重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト—認知・コミュニケーションを中心に—』を初めて導入した。

2. 授業事例

(1) 日時・場所 平成 29 年 10 月 24 日 (火) 10:55～11:40

(2) 学部・学年 高等部 C2グループ

(3) 題材名 ・物に合わせて手を使おう
・場面の変化に気が付こう

(4) 題材設定の理由

① 生徒観 本グループの生徒は、発達段階は、「言語によるコミュニケーション」「読み書き」「数量概念」の領域が未定着の学習集団である。また、運動機能面には立位や歩行において比較的制限が少なく、車イスを使用する生徒についても自走やよつばいなどによって自分で移動することができる。本授業では、始点と終点の理解、物や形の弁別、因果関係の理解などを深め、自分から人や物に働きかけることによって何かが起こる楽しみを感じ、認知力やコミュニケーション力を高めることが目標である。本グループでは、毎日2時間目に「朝の学習」を行い、朝のあいさつ・呼名に対する返事・作業・ランニングに取り組み、学校生活のリズムを身に付け、健康的な身体づくりを目指している。毎日繰り返し取り組むことで、返事の際にハイタッチをすることや、ホワイトボードに名札を貼ること、作業の際に紙をやぶったり箱に入れたりすることなど、少しずつスムーズにできるようになってきている。本授業でのこれまでの学習では、はじめは新しい環境や慣れない教材に戸惑う生徒が多かったが、繰り返し行うことによって、物に応じて手の使い方を調整したり、教員の声かけを聞いて行動できたりすることが増えてきた。感情の起伏がある生徒が多く、日によって活動意欲に差があるが、個々に応じた課題に取り組み、認知力やコミュニケーション力を高め、色々な状況に合わせて対応できるようになることが今後の目標である。

② 題材観 生徒の認知・コミュニケーション力に関する実態把握をする手段の一つとして、広島県立福山特別支援学校の『重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト—認知・コミ

コミュニケーションを中心に一』を活用した。本グループの課題は、「要求表出」の項目にある、Ⅲ段階の「応答性のある行動」やⅣ段階の「指さし理解」である。快・不快の表現が豊かで、笑顔や身体の動き、発声によって、他者に自分の気持ちを伝えることができるが、要求の具体化・明確化を深めることが目標である。「聴覚・言語」の項目では、Ⅳ段階の「特定フレーズの意味付け」や「言語の理解」に課題がある者が多い。本グループの生徒は、音楽を聴いたり、絵本の読み聞かせを聴いたりすることが好きで、聴覚から好みの情報を得ることが得意なため、音楽を手がかりとして授業の終わりや、理解できる語彙を増やしていきたい。「触覚等」の項目では、グループ内で最も個人差がある項目である。Ⅲ段階からⅦ段階まで様々であるが、空間認知力を高め、始点と終点を理解したり手指を活用したりして、物に応じて手の使い方を変えることを目標として、認知力を育てたい。また、生徒のなかには、受けた刺激や感覚をうまく処理することが苦手な生徒や、物の識別が難しい生徒、障がいの特性上、手が出にくい生徒もいる。自然と手を使える学習場面を設定し、手指の巧緻性や感覚を処理する力を高め、目と手の協応動作の向上をねらう。

- ③ 指導観 学習する環境については、1学期までは、「様々な教材に触れる」ことを目標とし、様々な教員が関わり、生徒が好きなことや苦手なことなど情報共有した。2学期からは、担当教員も固定して、アセスメントチェックリストを使って実態把握を行い、目標を明確にした。生徒が好きなものを教材として用い、「触れてみたい」「動かしてみたい」という気持ちを引き出し、目的に応じて自分の身体を動かすことへの意欲を育みたい。また、場面に合わせて行動する力をつけるため、課題に取り組んだ後、休憩し、再度課題に取り組む流れを定着させる。1学期は、一度休憩すると再度課題に取り組むことが難しかったが、2学期に入り、取り組む課題や学習環境に慣れた生徒が多く、休憩後も切り替えて課題に取り組むことができつつある。卒後を見据え、様々な人に自分の気持ちを伝える力や、必要な情報を自分から得る力をつけるために、わかることやできることを少しずつ増やし、心に余裕をつくり、自ら色々な状況に合わせて対応できるような素地をつくりたい。

- (5) 題材の目標 ○対象物へ視線を向けて手を動かす
○場面の变化に気づくことができる

(6) 指導計画【全14時間】

- 第1次(8時間) 本時 3/8
第2次(6時間)

(7) 本時の目標

- 個々の目標

児童・生徒	実態	目標	手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽や揺れ、車椅子の自走を好む ・物を握ると口で確かめ、指先で触ることが多い ・不快なときは、ズボンを脱ごうとしたり、教 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な感触の素材に触れ、物に合わせて手の使い方を変えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・細めの筒を用意し、手をすぼめてピン球やビー玉、スポンジなどを取るよう促す その際、できる限り手元を見て行うよう指導する

	<p>員の手をつまんだりすることがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右手だけではなく、左手でも物を動かす様子が見られてきている ・集中が途切れたときは退室し、気分転換をしてから再び課題に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・左右の手が、それぞれの働きをすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・よつばいになり、身体を支えながらくるくるチャイムにボールを入れる ・課題に取り組む際は、左手で物を支えながら行えるように教材を提示する
チェックリストによる生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・物と手を交互に見ながら、物に触れようとする ・支援者の声かけに応じるように声を出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物を見て、ボールを入れる場所を見て確認してから行うことができる（触Ⅲ—18） ・くるくるチャイムを行うとき、「もう一回しますか？」の声かけに、返事をするすることができる（要Ⅲ—14） 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリアするごとに、対象物の位置や向きを変え、見て確認するよう促す。 ・音や声かけによって位置の変化を伝える ・わかりやすく声かけし、返事があればボールを渡す
B	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽や抑揚のある声での絵本の読み聞かせを好む ・障がいの特性上、物に手を伸ばしにくいですが、好きなものには意欲的に触れることができる ・ボールやサンドイッチの模型を教員に渡す練習中 ・何かして欲しいときには、教員の手をとる ・日によって、教材に対する反応が異なり、立位や座位など体勢を変えて取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・感触が違うものによって、手の使い方を変える 	<ul style="list-style-type: none"> ・感触が違うものを用意する ・手を伸ばしやすい教材を用意し、場所に合わせて手を伸ばせるように提示する。必要に応じて視線を向けやすいように促す
チェックリストによる生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・物を握り、目と手で調べるように手元を見る ・目の前で全体が隠された物を探索する 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンドイッチの模型を持つことができる（触Ⅲ—18） ・サンドイッチの模型を布で隠したとき、自分から探すことができる（視Ⅳ—35） 	<ul style="list-style-type: none"> ・触りやすい位置に教材を提示する ・はじめは半透明で薄い布や透けて見えるもので隠す

C	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴くことや、高い場所に登ることを好む ・「出来た！」という声かけを聞き、教員の手を見るとハイタッチすることができる ・つまむときには、母指対向することはむずかしい ・絵の具を一本ずつではなく、数本まとめて袋に入れる ・鉛筆にキャップをつける際には、ペン先ではない方につけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・筒の中に入ったボールを取り、穴に入れることができる ・絵の具を袋に入れる際は、1本ずつ入れ、3本をひとまとまりにすることができる ・鉛筆にキャップをつけ、筆箱に入れることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・細めの筒を用意し、手をすぼめてボールを取るよう促す ・袋には3本しか入らないことを伝え、「1・2・3」と数唱しながら行う ・キャップはペン先につけるよう意識させながら、繰り返し取り組む。
チェックリストによる生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・見本の形と同じものを選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな物と写真のマッチングができる（数概VI-49） 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい声かけをし、定着したら少しずつ支援を減らす
D	<ul style="list-style-type: none"> ・丸いものや光るものに手を伸ばしやすい ・障がいの特性上、物に手を伸ばしにくいですが、光るボールや好きなものには意欲的に触れることができる ・映像を見たり気になるものを注視・追視したりすることができる ・嬉しいときには、笑顔を見せたり、身体を動かしたりして表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な感触の素材に触れ、物がある場所に合わせて手を伸ばして触れたり、掴んだりすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・感触が違うものを用意する ・興味がある物を5つボードに吊るようにして用意し、手を伸ばしやすい位置にボードを提示する
チェックリストによる生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前で全体が隠された物を探索する 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画の途中でiPadを布で隠したとき、探すことができる（視IV-35） 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは半透明な布や透けて見えるもので隠す
E	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を聴いたり、歌ったりすることを好む ・慣れてくると、細かい作業に一人で取り組める ・初期場面に対して不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲がった針金を穴に入れることができる ・鉛筆にキャップをつけ、 	<ul style="list-style-type: none"> ・1本ずつ渡し、課題の内容を明確にする ・作業に慣れるまでは手を

	<p>感を示すことがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な言葉での指示は理解でき、関心のある言葉でコミュニケーションをとろうとする 	<p>筆箱に入れたり、絵の具を袋の中に入れたりすることができる</p>	<p>添えて、行動を促す</p>
<p>チェックリストによる生徒の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけの話し掛けがわかって応じる ・見本と同じ形を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆっくり」や「1つずつ」などの声かけに応じ、行動を変えることができる(言理V-41) ・提示された教員の顔写真と同じものを選ぶことができる(数概VI-49) 	<ul style="list-style-type: none"> ・口調をゆるやかにし、指さしや対象物の例示を目の前で行い、理解を促す ・教員の顔写真を提示し、「〇〇先生のカードをください」「選んでください」などわかりやすい声かけを行う。
<p>F</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい作業や、絵と具体物のマッチング(スプーンやフォークなど)に一人で取り組める ・大きな物が動く様子を見たり、自分で物を運んだりすることを好む ・周囲の様子が気になると集中することがむずかしい ・欲しいものがあるとき、手をたたいたり、声をだしたりして示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・筒の中に入ったボールを取り、穴に入れることができる ・絵の具の向きを揃えて箱に入れたり、袋の中に入れたりすることができる ・鉛筆にキャップをつけ、筆箱に入れることができる ・各項目の学習終了時に声を出して、終了を伝えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・細めの筒を用意し、手をすばめてボールを取るよう促す ・課題に慣れてきたら3本ずつ入れるように指導する ・片付けやすいように環境を整えておく ・課題の量を減らし、終了の報告をする機械を増やして経験を積み重ねるようにする
<p>チェックリストによる生徒の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見本の形と同じ形を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された教員の顔写真と同じものを選ぶことができる(数概VI-49) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3人の写真を用意するが、慣れるまでは2択で行う

(8) 準備物

箱イス、くるくるチャイム、シングルアーチ、食べ物の模型、小豆、布、細い筒、ゴルフボールやピン球など、お菓子のパッケージ、ボード、絵の具、ジップ付の袋、色鉛筆・キャップ・筆箱、教員の顔写真、ファイル、タイマー

(9) 指導過程

学習活動		1 はじめの挨拶 身体を弛める (3分)	2 それぞれの課題に取り組む (20分) 休憩 (5分) 再度課題に取り組む (10分)	おわりの挨拶 (2分)
指導上の留意点 <input type="checkbox"/> 課題 <input type="checkbox"/> 支援・配慮 <input type="checkbox"/> ☆評価基準	A (T3)	○場合に応じて、タオルの上から手に触れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・左右の手が、それぞれの働きをすることができる ○減圧ボールを使ってよつばい姿勢になり、くるくるチャイムにボールを入れるようにする。その際、床に手をつき、身体を支えられているか確認する。 ☆よつばいをする際は手のひら全体で支えることができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・対象物をみて、ボールを入れる場所を見て確認してから行うことができる ○クリアするごとに、対象物の位置や向きを変え、見て確認するよう促す。 ○音や声かけによって位置の変化を伝える。 ○場合に応じて、気分転換する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「もう一回しますか？」の声かけに応答することができる ○くるくるチャイムを行い、全てのボールが入ったら「もう一回しますか？」と声かけをする。もう一度したい様子するとき、返事やハイタッチがあればボールを渡して続行する。 <ul style="list-style-type: none"> ・色々な感触の素材に触れ、物に合わせた手の使い方ができる ○細めの筒を用意し、手をすぼめてピン球やビー玉、スポンジなどを取るよう促す。その際、できる限り手元を見て行うよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の終わりを意識する ○生徒と一緒にあいさつをして、タイミングを伝える
	B (T1)	○手にはしっかり圧を加える。	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な感触の素材に触れ、物に合わせた手の使い方ができる ○指先を使って音が鳴りやすいものや、感触が異なるものを用意する。手を伸ばしたくなる教材を用意し、定着するまでは一緒に行う。 ☆感触の違いによって、触り方を変えることができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・サンドイッチの模型を持つことができる ○その日の調子によって体位を変えて行う。「パンちょうだい」と声かけし、渡すよう促す。	

		<p>・サンドイッチの模型を布で隠したとき、自分から探すことができる</p> <p>○はじめは半透明で薄い布や透けて見えるもので隠す。</p>
C (T 5)	○座位保持イスと天板の高さを確認する。	<p>・工夫して、手指を動かす</p> <p>○筒の中にボールを入れ、手をすぼめて取るよう促す。</p> <p>○ペグ差しは一人で行い、全部できたら教員に「できた」と報告するよう指導する。</p> <p>☆手をすぼめて筒の中のボールが取れているか。</p> <p>・絵の具を袋の中に入れる際には、1本ずつ入れ、3本をひとまとまりにすることができる</p> <p>○袋には3本しか入らないことを伝え、「1・2・3」と数唱しながら行う。</p> <p>・鉛筆にキャップをつけ、筆箱に入れることができる</p> <p>○ペン先を意識させながら繰り返し取り組む。</p> <p>☆ペン先にキャップをつけることができたか。</p>
D (T 4)	○手にはしっかり圧を加える。	<p>・色々な感触の素材に触れ、物に合わせた手の使い方ができる</p> <p>○興味がある物を5つボードに吊るようにして用意し、手を伸ばしやすい位置にボードを提示する。</p> <p>☆感触の違いによって、触り方を変えることができたか。</p> <p>・「もう一回聞く？」という教員の声かけに対して、ハイタッチして答えるよう促す。</p> <p>☆教員が手を見せると、自分からハイタッチすることができたか。</p> <p>☆自分から音源に触れて、動画を見たいことをアピールすることができたか。</p> <p>○立ち歩きたそうな場合は、他の課題を行う。</p>
	○心身ともに落ち着くように、ゆったりとした声かけをする。	<p>・曲がった針金を穴に入れることができる</p> <p>○1本ずつ渡し、課題の内容を明確にする。</p> <p>・鉛筆にキャップをつけ、筆箱に入れたり、絵の具を袋の中に入れたりすることができる</p> <p>○作業に慣れるまでは手を添えて行動を促す。</p> <p>☆「1本ずつ」や「ゆっくり」などの簡単な指示を理解できたか。</p> <p>・提示された写真と同じものを選ぶ</p>

E (T 2)		<p>○教員の顔写真を提示し、「○○先生のカードをください」「選んでください」などわかりやすい声かけを行う。</p> <p>☆提示した写真と同じものを選ぶことができたか。</p>
F (T 2)	<p>○心身ともに落ち着くように、ゆったりとした声かけをする。</p>	<p>・提示された写真と同じものを選ぶ</p> <p>○教員の顔写真同士のマッチングを行い、「△△先生、どっち?」「選んでください」などわかりやすい声かけを行う。</p> <p>☆提示した写真と同じものを選ぶことができたか。</p> <p>・筒の中に入ったボールを取り、穴に入れることができる</p> <p>○筒の中にボールを入れ、手をすぼめて取るように促す。</p> <p>☆手をすぼめて筒の中のボールが取れているか。</p> <p>・鉛筆にキャップをつけ、筆箱に入れたり、絵の具を袋の中に入れたりすることができる</p> <p>○作業に慣れるまでは手を添えて、行動を促す</p> <p>☆「1本ずつ」や「ゆっくり」などの簡単な指示を理解できたか。</p> <p>・提示された写真と同じものを選ぶ</p> <p>○教員の顔写真を提示し、「○○先生のカードをください」「選んでください」などわかりやすい声かけを行う。</p> <p>☆提示した写真と同じものを選ぶことができたか。</p> <p>・各項目の学習終了時に声を出して、終了を伝えることができる</p> <p>・課題の量を減らし、終了の報告をする機会を増やして経験を積み重ねるようにする。</p>
全体	<p>○正しい学習姿勢に整える。</p> <p>○自分の身体を意識できるように支援する。</p>	<p>・15分～20分間落ち着いて取り組む</p> <p>○終わりがわかりやすいように、アラームをセットする。</p> <p>・アラームの音を聞いて、休憩の音楽が流れることに期待を示す</p> <p>○課題終了のアラームが鳴ると、音楽が流れることを伝える。</p> <p>☆アラームの音が鳴ったとき、音楽が流れることに期待する様子があるか。</p> <p>☆音楽が終わったら着席することができたか。</p>

			☆再度課題に取り組むことができたか。	
--	--	--	--------------------	--

(10) 評価の観点

- 物に応じて手の使い方を変えることができたか
- 自分から要求・表出することができたか

個別の目標

- A 左右の手が、それぞれの働きをすることができる
対象物をみて、ボールを入れる場所を見て確認してから行うことができる

- B 対象物に手を伸ばし、教員に渡すことができる
対象物を布で隠したとき、自分から探すことができる

- C 手をすぼめて筒の中のボールを取ることができる
絵の具を袋に入れる際には1本ずつ入れることができる
課題ができたときに、教員の声かけに対して身振り・発声で応答することができる

- D 自ら具体物に手を伸ばすことができる
対象物を布で隠したとき、自分から探すことができる

- E 曲がった針金を穴に入れることができる
言葉だけの話し掛けがわかって応じることができる
提示された教員の顔写真と同じものを選ぶことができる

- F 各項目の学習終了時に声を出して、終了を伝えることができる
言葉だけの話し掛けがわかって応じることができる
提示された見本の形と同じものを選ぶことができる

指導の目標

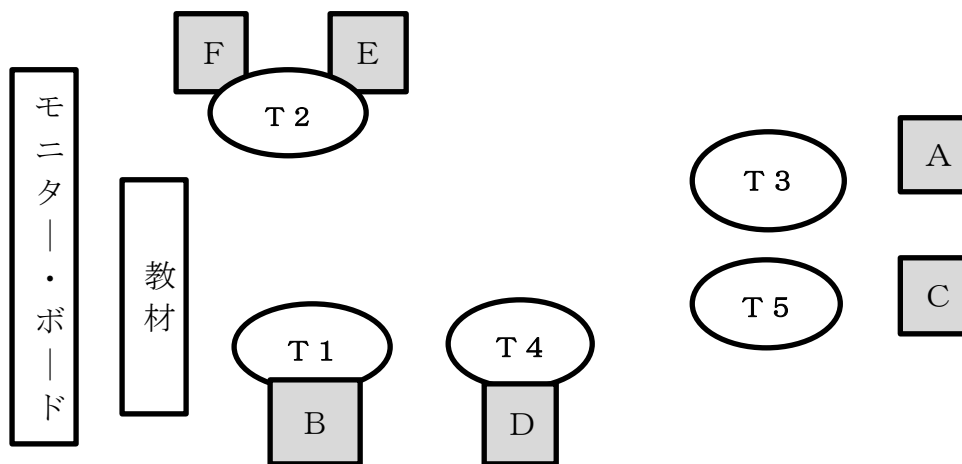
- 学習内容の分量は適切であったか
- 実態に応じた支援は適切であったか
- 教材・教具は目標達成に対して効果的であったか

(11) 年間指導計画

目標 (グループの年間指導計画から)	題材名	時間数
<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題を通して、保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用する ・授業に参加するための手順やきまりを理解して行動する 	・様々な教材を見て、触れてみよう	25 時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・物に合わせて手を使おう ・場面の変化に気が付こう 	14 時間

<ul style="list-style-type: none"> 気分転換をしたり集中したりする時間を過ごし、変化する状況に適切に対応する 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の要求を伝えたり、教員の声かけに応えたりすることができる 場面の変化に合わせて行動しよう 	17 時間
合計		56 時間

(12) 教室内配置図



生徒A

		◆コミュニケーションに関するプロフィール表						
月齢	段階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等	視覚等		
0 ヶ月	I	快・不快の表出	人の働きかけによる快反応	外界への気付き(聴覚)	外界への気付き(触覚等)	外界への気付き(視覚)		
2 ヶ月	II	反応表出 大人への注意	声への好反応 大人への注意	音への注意 音の変化への気付き	感触の変化への気付き 手への気付き 物への気付き(触覚)	注視 追視		
4 ヶ月	III	期待反応 声のやりとり 応答性のある行動	特定の支援者への気付き 特定の支援者への愛着 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 前触れの音への気付き 特定フレーズへの気付き	把握 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	物への気付き(視覚) 手から目 目から手		
7 ヶ月	IV	YESによる要求 YES/NOによる要求 指さし理解	YESによる要求 他者意図への気付き 自分への気付き	特定フレーズへの意味付け 言葉の理解	探索的操作 因果関係の理解 操作性の高まり	興味の拡大(視覚) 物の永続性 探索的行動		
		↓	↓	↓	↓ ↓	↓ ↓ ↓ ↓		
				言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL
10 ヶ月	V	大人の注意を引く 具体物を用いた要求 指さし要求	他者意図の理解 やりとりの拡大 共感性	名詞等の理解 言語指示への応答	言葉の模倣 発語	空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	保存の概念 比較の概念	模倣 生活場面での理解
13 ヶ月	VI	要求の具体化・明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	表出語彙の増加 名詞等の発語	視覚情報の活用	図形概念の芽生え 数・量概念の芽生え	生活場面での記憶の 活用 見立て・ごっこ遊びへの 興味
19 ヶ月 24	VII	自己主張の芽生え 二語文での要求	他の子どもへの興味 自己意識の芽生え 社会性の高まり	理解語彙の増加 カテゴリー概念の芽生え	言葉での要求 二語文等の表出	道具の活用 空間認知の高まり	数・量概念の高まり カテゴリー概念の芽生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・清潔等 ADLの基礎

生徒B

		◆コミュニケーションに関するプロフィール表						
月齢	段階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等	視覚等		
0 ヶ月	I	快・不快の表出	人の働きかけによる快反応	外界への気付き(聴覚)	外界への気付き(触覚等)	外界への気付き(視覚)		
2 ヶ月	II	反応表出 大人への注意	声への好反応 大人への注意	音への注意 音の変化への気付き	感触の変化への気付き 手への気付き 物への気付き(触覚)	注視 追視		
4 ヶ月	III	期待反応 声のやりとり 応答性のある行動	特定の支援者への気付き 特定の支援者への愛着 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 前触れの音への気付き 特定フレーズへの気付き	把握 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	物への気付き(視覚) 手から目 目から手		
7 ヶ月	IV	YESによる要求 YES/NOによる要求 指さし理解	YESによる要求 他者意図への気付き 自分への気付き	特定フレーズへの意味付け 言葉の理解	探索的操作 因果関係の理解 操作性の高まり	興味の拡大(視覚) 物の永続性 探索的行動		
		↓	↓	↓	↓ ↓	↓ ↓ ↓ ↓		
				言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL
10 ヶ月	V	大人の注意を引く 具体物を用いた要求 指さし要求	他者意図の理解 やりとりの拡大 共感性	名詞等の理解 言語指示への応答	言葉の模倣 発語	空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	保存の概念 比較の概念	模倣 生活場面での理解
13 ヶ月	VI	要求の具体化・明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	表出語彙の増加 名詞等の発語	視覚情報の活用	図形概念の芽生え 数・量概念の芽生え	生活場面での記憶の 活用 見立て・ごっこ遊びへの 興味
19 ヶ月 24	VII	自己主張の芽生え 二語文での要求	他の子どもへの興味 自己意識の芽生え 社会性の高まり	理解語彙の増加 カテゴリー概念の芽生え	言葉での要求 二語文等の表出	道具の活用 空間認知の高まり	数・量概念の高まり カテゴリー概念の芽生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・清潔等 ADLの基礎

生徒C

		◆コミュニケーションに関するプロフィール表						
月齢	段階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等	視覚等		
0歳	I	快・不快の表出	人の働きかけによる快反応	外界への気付き(聴覚)	外界への気付き(触覚等)	外界への気付き(視覚)		
2歳	II	反応表出 大人への注意	声への好反応 大人への注意	音への注意 音の変化への気付き	感触の変化への気付き 手への気付き 物への気付き(触覚)	注視 追視		
4歳	III	期待反応 声のやりとり 応答性のある行動	特定の支援者への気付き 特定の支援者への愛着 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 前触れの音への気付き 特定フレーズへの気付き	把握 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	物への気付き(視覚) 手から目 目から手		
7歳	IV	YESによる要求 YES/NOによる要求 指さし理解	YESによる要求 他者意図への気付き 自分への気付き	特定フレーズへの意味付け 言葉の理解	探索的操作 因果関係の理解 操作性の高まり	興味の拡大(視覚) 物の永続性 探索的行動		
		↓	↓	↓	↓ ↓	↓ ↓ ↓ ↓		
				言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL
10歳	V	大人の注意を引く 具体物を用いた要求 指さし要求	他者意図の理解 やりとりの拡大 共感性	名詞等の理解 言語指示への応答	言葉の模倣 発語	空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	保存の概念 比較の概念	模倣 生活場面での理解
13歳	VI	要求の具体化・明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	表出語彙の増加 名詞等の発語	視覚情報の活用	図形概念の芽生え 数・量概念の芽生え	生活場面での記憶の活用 見立て・ごっこ遊びへの興味
19歳 24	VII	自己主張の芽生え 二語文での要求	他の子どもへの興味 自己意識の芽生え 社会性の高まり	理解語彙の増加 カテゴリー概念の芽生え	言葉での要求 二語文等の表出	道具の活用 空間認知の高まり	数・量概念の高まり カテゴリー概念の芽生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・清潔等 ADLの基礎

生徒D

		◆コミュニケーションに関するプロフィール表						
月齢	段階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等	視覚等		
0歳	I	快・不快の表出	人の働きかけによる快反応	外界への気付き(聴覚)	外界への気付き(触覚等)	外界への気付き(視覚)		
2歳	II	反応表出 大人への注意	声への好反応 大人への注意	音への注意 音の変化への気付き	感触の変化への気付き 手への気付き 物への気付き(触覚)	注視 追視		
4歳	III	期待反応 声のやりとり 応答性のある行動	特定の支援者への気付き 特定の支援者への愛着 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 前触れの音への気付き 特定フレーズへの気付き	把握 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	物への気付き(視覚) 手から目 目から手		
7歳	IV	YESによる要求 YES/NOによる要求 指さし理解	YESによる要求 他者意図への気付き 自分への気付き	特定フレーズへの意味付け 言葉の理解	探索的操作 因果関係の理解 操作性の高まり	興味の拡大(視覚) 物の永続性 探索的行動		
		↓	↓	↓	↓ ↓	↓ ↓ ↓ ↓		
				言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL
10歳	V	大人の注意を引く 具体物を用いた要求 指さし要求	他者意図の理解 やりとりの拡大 共感性	名詞等の理解 言語指示への応答	言葉の模倣 発語	空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	保存の概念 比較の概念	模倣 生活場面での理解
13歳	VI	要求の具体化・明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	表出語彙の増加 名詞等の発語	視覚情報の活用	図形概念の芽生え 数・量概念の芽生え	生活場面での記憶の活用 見立て・ごっこ遊びへの興味
19歳 24	VII	自己主張の芽生え 二語文での要求	他の子どもへの興味 自己意識の芽生え 社会性の高まり	理解語彙の増加 カテゴリー概念の芽生え	言葉での要求 二語文等の表出	道具の活用 空間認知の高まり	数・量概念の高まり カテゴリー概念の芽生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・清潔等 ADLの基礎

生徒E

		◆コミュニケーションに関するプロフィール表						
月齢	段階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等	視覚等		
0歳	I	快・不快の表出	人の働きかけによる快反応	外界への気付き(聴覚)	外界への気付き(触覚等)	外界への気付き(視覚)		
2歳	II	反応表出 大人への注意	声への好反応 大人への注意	音への注意 音の変化への気付き	感触の変化への気付き 手への気付き 物への気付き(触覚)	注視 追視		
4歳	III	期待反応 声のやりとり 応答性のある行動	特定の支援者への気付き 特定の支援者への愛着 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 前触れの音への気付き 特定フレーズへの気付き	把握 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	物への気付き(視覚) 手から目 目から手		
7歳	IV	YESによる要求 YES/NOによる要求 指さし理解	YESによる要求 他者意図への気付き 自分への気付き	特定フレーズへの意味付け 言葉の理解	探索的操作 因果関係の理解 操作性の高まり	興味の拡大(視覚) 物の永続性 探索的行動		
		↓	↓	↓	↓ ↓	↓ ↓ ↓ ↓		
				言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL
10歳	V	大人の注意を引く 具体物を用いた要求 指さし要求	他者意図の理解 やりとりの拡大 共感性	名詞等の理解 言語指示への応答	言葉の模倣 発語	空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	保存の概念 比較の概念	模倣 生活場面での理解
13歳	VI	要求の具体化・明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	表出語彙の増加 名詞等の発語	視覚情報の活用	図形概念の芽生え 数・量概念の芽生え	生活場面での記憶の活用 見立て・ごっこ遊びへの興味
19歳 24	VII	自己主張の芽生え 二語文での要求	他の子どもへの興味 自己意識の芽生え 社会性の高まり	理解語彙の増加 カテゴリー概念の芽生え	言葉での要求 二語文等の表出	道具の活用 空間認知の高まり	数・量概念の高まり カテゴリー概念の芽生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・清潔等 ADLの基礎

生徒F

		◆コミュニケーションに関するプロフィール表						
月齢	段階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等	視覚等		
0歳	I	快・不快の表出	人の働きかけによる快反応	外界への気付き(聴覚)	外界への気付き(触覚等)	外界への気付き(視覚)		
2歳	II	反応表出 大人への注意	声への好反応 大人への注意	音への注意 音の変化への気付き	感触の変化への気付き 手への気付き 物への気付き(触覚)	注視 追視		
4歳	III	期待反応 声のやりとり 応答性のある行動	特定の支援者への気付き 特定の支援者への愛着 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 前触れの音への気付き 特定フレーズへの気付き	把握 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	物への気付き(視覚) 手から目 目から手		
7歳	IV	YESによる要求 YES/NOによる要求 指さし理解	YESによる要求 他者意図への気付き 自分への気付き	特定フレーズへの意味付け 言葉の理解	探索的操作 因果関係の理解 操作性の高まり	興味の拡大(視覚) 物の永続性 探索的行動		
		↓	↓	↓	↓ ↓	↓ ↓ ↓ ↓		
				言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL
10歳	V	大人の注意を引く 具体物を用いた要求 指さし要求	他者意図の理解 やりとりの拡大 共感性	名詞等の理解 言語指示への応答	言葉の模倣 発語	空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	保存の概念 比較の概念	模倣 生活場面での理解
13歳	VI	要求の具体化・明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	表出語彙の増加 名詞等の発語	視覚情報の活用	図形概念の芽生え 数・量概念の芽生え	生活場面での記憶の活用 見立て・ごっこ遊びへの興味
19歳 24	VII	自己主張の芽生え 二語文での要求	他の子どもへの興味 自己意識の芽生え 社会性の高まり	理解語彙の増加 カテゴリー概念の芽生え	言葉での要求 二語文等の表出	道具の活用 空間認知の高まり	数・量概念の高まり カテゴリー概念の芽生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・清潔等 ADLの基礎

3. 考察

(1) 実態把握と目標設定

前述で示した指導案では、手元をよく見て操作することや、集中して取り組む時間を延ばすことに重点をおいていた。実際に、課題を通して教員に気持ちを伝えたり、落ち着いて学習したりする習慣がついた様子はあったが、日々の授業や授業検討会を終えて見えてきたことは、本グループは、グループの共通の学習内容と目標に加えて、【 α 】^{*1}と【 β 】^{*2}で異なった学習内容を用意し、それに伴い目標設定も考える必要があることがわかった。

※1※2

広島県立福山支援学校の『重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト—認知・コミュニケーションを中心に—』を参考に実態把握を行った。

【 α 】: I段階～IV段階の生徒 (A・B・D)

要求の表出や応答性のある行動を学習するグループ

【 β 】: V段階以降の生徒 (C・E・F)

教科の初期 (知的一段階) を学習する学習グループ

本グループの共通目標

- ・外界に対しての注意を持続する力をつける
- ・自分の気持ちを相手に伝える

【 α 】グループの目標

- ・「感じる」「味わう」おもしろさを学習し、興味・関心の幅を広げる
- ・「人」だけではなく、様々な「物」にも注意を持続する

【 β 】グループの目標

- ・「知る」「わかる」「学ぶ」おもしろさを学習し、自発的に学ぶ力をつける
- ・「記憶」に関わる教材・教具に取り組むことで、判断する力・処理する力をつける
- ・新しい操作・判断を要するものにどんどん挑戦する

(2) グループ学習と個別学習

「絵本の読み聞かせ」を題材にしたとき、グループみんなで学習する方が、個別で学習するよりも生徒全員がより絵本に注目できたり、ページめくりを順番に行うことにより、友だちを意識し、順番を守ったりする活動ができるため、グループ活動として行うことが効果的である。だが、その後の「絵を見て登場人物の名前を答える」などの教科の初期段階の内容を学習するときは、【 β 】の生徒が個別に学習する方が有効ではないかと考える。このように、グループ学習だからこそ得られる効果がある活動と、個別学習の方が効果を期待できる活動があるため、授業を展開するときは、両者のバランスをほどよく取り入れていきたい。

(3) 今後の課題

個々の生徒が、どのようなアプローチによって外界に興味を持ち、他者を信頼し働きかけるようになるのか追求していきたい。また、サブティーチャーと連携をとり、生徒の実態把握や目標設定、手立て、評価方法を検討し、一人ひとりのストロングポイントを有効に取り入れ、生徒が将来の目標を達成できるよう指導・支援していきたい。